

高知県におけるアウトドアスポーツツーリズムの経験価値に関する研究

1220441 金本遼

指導教員 前田和範

研究背景

近年、アウトドアスポーツツーリズム機運が高まっており、高知県においてもスポーツツーリズムの活性化の取り組みを強化している。アウトドアスポーツツーリズムを推進していくためには、受け入れ側の各事業者による戦略的マーケティングが必要とされてきており、アウトドアスポーツの特性（経験価値）をよく理解したマーケティング戦略の策定が求められる。しかし、これまでの研究では、サイクリング以外のアウトドアスポーツの経験価値に関する資料は確認することができなかった。

研究目的

本研究では高知県大豊町の事業者が運営するラフティングプログラムの利用者に焦点当て、ラフティングの経験価値を明らかにしていく。また、ラフティングに関する課題を明確にし、改善案を提案することを目的とする。

調査・分析方法

高知県の大豊町の事業者が運営するラフティングプログラムの利用者2名に対し、シュミットの経験価値モジュール（SEM）を参考に、ラフティングの経験価値を問うインタビュー調査を行った。また、その結果をもとにラフティングプログラムを運営する事業者と同じく経験価値と課題に関するインタビュー調査を行った。

分析結果

利用者へのインタビューの結果、ラフティングの経験価値は、SENSE「川から景色、波・風の音など」、FEEL「非日常感、開放感など」THINK「パドルを扱うコツ、ラフティング歴史など」ACT「魅力の発見、向上意欲など」RELATE「SNSの交流、インストラクターとの交流など」であることがわかった。また、事業者が考えるラフティングプログラムの経験価値は、SENSE「ボートからの景色など」、FEEL「吉野川の雰囲気など」、THINK「吉野川の歴史など」、ACT「スポーツするきっかけなど」、RELATE「他の利用者との交流など」であり、課題に関しては、「交通面の不便さ、交通状態の悪さ」、「インストラクター不足」、「宣伝の難航」などが挙げられた。

考察・結論

ラフティングは、自然と一体になることができ、普段は味わえない自然の摂理を味わうことができ、川の中にいることでより一層非日常感を味わうことができるという経験価値を有していることがわかった。また、課題としては、道路状態や交通面の不便さなどの慢性的なものから、インストラクター不足や宣伝方法の不十分さなどの短期的に改善余地があるものまで、様々あることがわかった。結果として、町全体のガイドを兼任するインストラクターの雇用や、YouTubeなどインフルエンサーを使った宣伝方法などが有効であることが示された。